

2023(令和5)年12月20日付報道発表資料
[本リリース発信元]ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)



©Yulia Sko.

『公文協アートキャラバン事業 劇場へ行こう3』参加事業
akakilike『家族写真』

もしな もし もしやで
お父さんが 死んだらやけどな みんな
考えたことある？

2024年1月18日(木)~1月21日(日) 全4回
ロームシアター京都 ノースホール

演出・振付: 倉田翠

出演: 今村達紀、倉田翠、迫沼莉子、佐藤健太郎、筒井潤、寺田みさこ、前谷開

[本リリース発信元]

ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団) 広報担当: 山形、加藤、儀三武
電話: 075-771-6051(10:00~17:00) FAX: 075-746-3366 E-mail: press@rohmtheatrekkyoto.jp

■本企画趣旨

ロームシアター京都では、2024年1月18日(木)～21日(日)に倉田翠主宰 akakilike による『家族写真』を上演いたします。人と人との関係性を軸に作品制作をしてきた akakilike が「家族」をテーマにした今作は、2016年に初演されたのち、2023年に世界が注目する舞台芸術フェスティバルであるクンステン・フェスティバル・デザール(ベルギー・ブリュッセル)とフェスティバル・ドードンヌ・ア・パリに招聘され、高い評価を得ました。初演からの時間経過をも作品に織り込まれ、変化し続ける注目作であり倉田の代表作が、満を持して京都で凱旋公演を行います。

■本企画のポイント

変わっていく個々の関係性から浮かびあがる「家族」

『家族写真』は、倉田翠と終身保険の営業マンの出会いがきっかけで制作されました。自身の生命保険について語り続ける「父」を中心にくりひろげられる人間関係から、「家族」という小さなコミュニティのありようや社会との関係性が浮かびあがります。

2016年初演時から時間とともに変わっていく演者同士の関係性が作品内に反映され、初演時は小学生だった出演者(迫沼莉子)が2023年現在では高校生に成長しているなど、出演者が現実に重ねてきた時間が、作品内の「家族」のありかたの変化と重なっていきます。



©Kai Maetani

個と個の関係性から作品をたちあげる akakilike の手法

倉田翠はこれまで、京都市東九条の老人介護施設の入居者とともにつくった『はじめまして こんにちは 今私は誰ですか?』や、薬物依存症リハビリ施設の入居者とともにつくった『眠るのがもったいないくらいに楽しいことをたくさん持って、夏の海がキラキラ輝くように、緑の庭に光あふれるように、永遠に続く気が狂いそうな晴天のように』をはじめとして、倉田自身がコミュニティ内に入りこみ、他者とかかわりながら作品制作をする手法をとってきました。そこから生まれたドキュメンタリーとフィクションの間にある作品は、演劇、ダンス、音楽、写真、映像など様々なメディアが駆使され、役と舞台という関係性をとおして、現実における主体と共同体に問いを投げかけています。

■「家族写真」上演にあたって 倉田翠(akakilike)

私が「写真」という言葉で真っ先に思い出すのが、家族写真でした。私の父は、事あるごとに家族写真を撮る人だった。それが成長と共に嫌になったりすることもあった。反抗期でニコリともせず写真に収まることもあった。でも父は写真を撮り続けた。まるで、その時々「家族」の形を記録して行くように。

「家族」というものに対し、絶対的な繋がりや、不可思議さを感じてきました。それぞれが家族であるために担っている役割があるように思ってきた。父の役割、母の役割、子供の役割。子供の成長により崩れるバランスをそれぞれが調整しながら、なんとか家族を保って行く。喜ばしいと思われる子供の成長も、その成長していくこと自体に付き纏うある残酷さを感じていた。実際に『家族写真』は、2016年の初演時はまだ小学2年生だった子役が、現在高校2年生になっている。当時の子供がゆえの愛らしさはもうなくなっている。それは、ただバレエを踊っているだけで可愛くて愛おしいという視線を注がれる時期はもう過ぎているということである。現に彼女は随分前に自分の意志でバレエを辞めている。繰り返し再演をする中で、彼女自身が、作品の中で身を持って成長の残酷さを体験することになってしまった。それはまるで、実際の家族の中で、子供役から逃れられない「もう子供ではなくなっている」子供のようである。それでもバランスを取りながら継続されて行く「家族」という営み。「家族」という構造から逃れることの難しさ、またはその構造の儚さ。「もう昔とは違う」ということをそのまま引き受けた作品です。



©Yuki Moriya

■上演歴

- 2016年 8月 「家族写真」@アトリエ劇研
2017年 5月 akakilike「家族写真」@京都芸術センター 講堂
2018年 6月 akakilike「家族写真」@d-倉庫
2020年 2月 横浜ダンスコレクション HOTPOT 東アジア・ダンスプラットフォーム
倉田翠 / akakilike「家族写真」@横浜赤レンガ倉庫 1号館 3F ホール
2020年 10月 愛知県芸術劇場ダンス・セレクション
倉田翠 / akakilike「家族写真」@愛知県芸術劇場 小ホール
2023年 5月 Kunstenfestivaldesarts
倉田翠 / akakilike『家族写真』ブリュッセル公演@Les Brigittines
2023年 10月 Festival d'Automne à Paris
倉田翠 / akakilike『家族写真』パリ公演@パリ日本文化会館

■関連テキスト

若手アーティスト支援として、ロームシアター京都 × 京都芸術センターU35 創造支援プログラム“KIPPU”にて上演された akakilike による『はじめまして こんにちは、今私は誰ですか?』(2019年度上演)の劇評を当館 WEB マガジン「Spin-Off」に掲載しています。

○「誠実さと残酷さ」高嶋慈(美術・舞台芸術批評) [こちら](#)

○「他者の時間 立ち現れ、交じり合い、消え行く言葉、記憶、舞台」エグリントンみか(演劇研究者、批評家、翻訳家、ドラマターグ) [こちら](#)

■プロフィール

倉田翠(くらた・みどり)

1987年三重県生まれ。京都造形芸術大学(現・京都芸術大学)映像・舞台芸術学科卒業。3歳よりクラシックバレエ、モダンバレエを始める。京都を中心に、演出家・振付家・ダンサーとして活動。作品ごとに自身や他者と向かい合い、そこに生じる事象を舞台構造を使ってフィクションとして立ち上がらせることで「ダンス」の可能性を探求している。2016年より、倉田翠とテクニカルスタッフのみの団体、akakilike(アカキライク)の主宰を務め、アクターとスタッフが対等な立ち位置で作品に関わる事を目指し活動している。セゾン文化財団セゾン・フェロー I。2024年4月より、まつもと市民芸術館 芸術監督(舞踊部門)。



© Bea Borgers

akakilike(アカキライク)

テクニカルスタッフと倉田翠のみで構成され、主に舞台作品を作る。スタッフと出演者が常に対等であること。それぞれが確立して作品のためにやるべきことをするために集まった集団。

メンバー: 倉田翠、平澤直幸、甲田徹、魚森理恵

■公演情報

『公文協アートキャラバン事業 劇場へ行こう3』参加事業
akakilike『家族写真』

日時:2024年1月18日(木)~1月21日(日)

1月18日(木) 19:00開演

1月19日(金) 19:00開演

1月20日(土) 16:00開演

1月21日(日) 12:00開演

※開場は開演の30分前(上演時間:約60分)

会場:ロームシアター京都 ノースホール



©Pierre Grosbois

鑑賞サポート

- * 全ステージに託児サービスあり。詳細はロームシアター京都ウェブサイト公演ページをご覧ください。
- * ヒアリンググループ専用受信機をご利用いただけます。(座席位置・台数に限りあり)
- * きこえない・きこえづらい・日本語の聞き取りが苦手なお客様に、開演30分前より、上演テキスト(日本語・英語・フランス語)の貸出あり。お問合せ:accessibility@rohmtheatrekkyoto.jp

出演:今村達紀、倉田翠、迫沼莉子、佐藤健太郎、筒井潤、寺田みさこ、前谷開

テキスト:筒井潤 舞台監督:十河陽平 制作:豊山佳美

<以下 akakilike メンバー> 演出・振付:倉田翠、演出助手:平澤直幸、音響:甲田徹、照明:魚森理恵

製作:akakilike

主催:ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都市、公益社団法人全国公立文化施設協会

助成:文化庁文化芸術振興費補助金(統括団体による文化芸術需要回復・地域活性化事業(アートキャラバン2)、独立行政法人日本芸術文化振興会)

■チケット情報 [好評発売中]

料金:<全席自由>一般 3,500円/ユース(25歳以下)2,000円

18歳以下 1,000円/小学生以下 無料

※5歳以上推奨

※「ユース」「18歳以下」のチケットをご購入の方は、公演当日に年齢が確認できる証明書のご提示が必要。

※車椅子席をご希望の方、介助者同伴の方は、ロームシアター京都チケットカウンターまで(075-746-3201)。

チケット取扱:

- ・オンラインチケット 24時間購入可 ※要事前登録(無料)

<https://www.s2.e-get.jp/kyoto/pt/>

- ・ロームシアター京都チケットカウンター

TEL.075-746-3201 (10:00~17:00、年中無休 ※臨時休館日等により変更の場合あり)

- ・京都コンサートホールチケットカウンター

TEL.075-711-3231 (10:00~17:00、第1・3月曜休 ※祝日の場合は翌日)

- ・チケットぴあ Pコード:522-578 <https://t.pia.jp/>

- ・e+(イープラス) <https://eplus.jp>

お問合せ:

ロームシアター京都チケットカウンター TEL.075-746-3201

公演 WEB ページ: <https://rohmtheatrekkyoto.jp/event/108647/>



チケット予約
購入ページ

■関連企画

前谷開「姿勢」

舞台作品「家族写真」上演にあわせて開催する、写真家・前谷開による写真展。

前谷はこの作品に出演者として参加しながら、中判フィルムカメラによるセルフポートレートという独特な撮影方法を用いて、上演中の舞台作品内で写真を撮影してきました。

今回のロームシアター京都での展示「姿勢」では、2016年の初演から2023年までの過去7回の公演において撮影された写真と、舞台裏や稽古風景、団らんなど、作品にまつわる様々な場面で撮影された写真を展示します。

期間：2024年1月5日(金)～1月21日(日) 10:00～17:00

※劇場の開館時間に準じる ※最終日は14時まで

場所：ロームシアター京都 プロムナード北

料金：無料

前谷 開(まえたに かい)

1988年 愛媛県生まれ。神奈川県在住。2013年 京都造形芸術大学(現・京都芸術大学)大学院 芸術研究科表現専攻修了。自身の行為を変換し、確認するための方法として主に写真を使った作品制作を行う。主な展覧会に、「転覆する体 アート、ジェンダーとメディア」(The 5th Floor、東京、2022)「類比の鏡／The Analogical Mirrors」(山中 suplex、滋賀、2020)、「六本木クロッシング 2019 展：つないでみる」(森美術館、東京、2019)など。



家族写真ワークショップ

日時：2024年1月8日(月・祝)18:30～21:30

場所：京都市北文化会館 創造活動室

料金：1,000円

講師：倉田翠

※定員に達したため申込受付は終了しました。